

銘柄コード:2669



カネ美食品株式会社

2019年2月期 第2四半期 決算説明会

本資料に記載されている今後の業績見通し及び各情報などは、現段階における入手可能な事項と、当社が十分合理的であると判断した事項に限って記載を致しております。

今後起こり得る各要因によって、当社の今期計画の予定及び業績が著しく異なってくる可能性も有り得ますので、その点を踏まえてのご参考資料として頂ければ幸いです。



【本資料に関するお問合せ先】

カネ美食品株式会社 総務部TEL (052)879-6113(直)

E-mail: soumu-ir@kanemi-foods.co.jp

URL: <https://www.kanemi-foods.co.jp>

テナント事業

- ・スーパーマーケットを中心に、百貨店や駅ナカなどへ出店
- ・東海地方を中心に関東、関西に店舗展開
- ・地域や周辺環境に合わせ、柔軟な対応ができるよう様々な業態やブランドを展開

【出店先】

■スーパーマーケット	254 店舗
ユニー(アピタ・ピアゴ)、MEGAドン・キホーテUNY	236 店舗
その他(アオキスーパー、オオゼキ等)	18 店舗
■百貨店・駅ナカ・駅ビル等	30 店舗
百貨店	12 店舗
駅ナカ・駅ビル	16 店舗
その他(商業施設等)	2 店舗
■外食店舗	3 店舗
寿司御殿	3 店舗



アピタ横浜綱島店



eashion グランエミオ所沢店

外販事業

- ・東海地方を中心に関東、関西等に15工場を配置
- ・コンビニエンスストアへ納品する弁当・おにぎり・パスタ等を製造
- ・鉄道会社が運営するコンビニエンスストアへ納品する弁当・おにぎり等を製造
- ・地域の生活協同組合から、主に夕食宅配弁当の製造を受託

【納品先】

■コンビニエンスストア

ファミリーマート 8,626 店舗
サークルK、サンクス

■鉄道系コンビニエンスストア

NewDays、KIOSK(JR東日本リテールネット) 625 店舗

■宅配関連

コープデリ、おおさかパルコープ、コープあいち 等 全7カ所の生活協同組合



コンビニエンスストア



NewDays

**2019年2月期 第2四半期
決算概況**

業績の状況

(単位:百万円)

	2018年3月期 第2四半期		2019年2月期 第2四半期		
	実績	構成比 (%)	実績	構成比 (%)	前期比 (%)
売上高	44,514	100.0	45,443	100.0	102.0
テナント事業	21,770	48.9	21,975	48.4	100.9
外販事業	22,744	51.1	23,468	51.6	103.1
営業利益または 損失(△)	△1,057	—	506	1.1	—
経常利益または 損失(△)	△1,001	—	565	1.2	—
四半期純利益または 損失(△)	△776	—	407	0.8	—

(注)売上高は各事業のセグメント間の内部売上高を除いて表示しております。

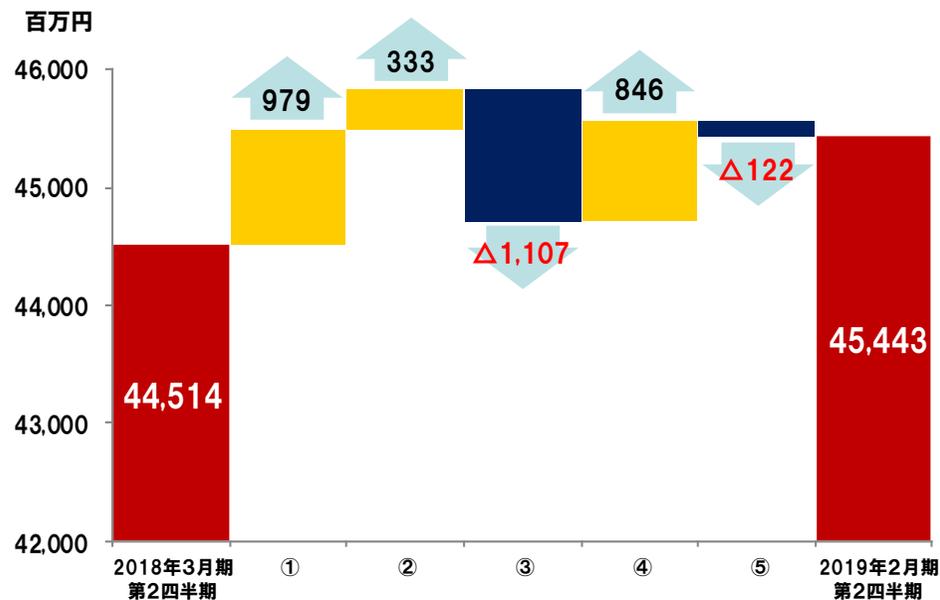
セグメント別の業績の状況

(単位:百万円)

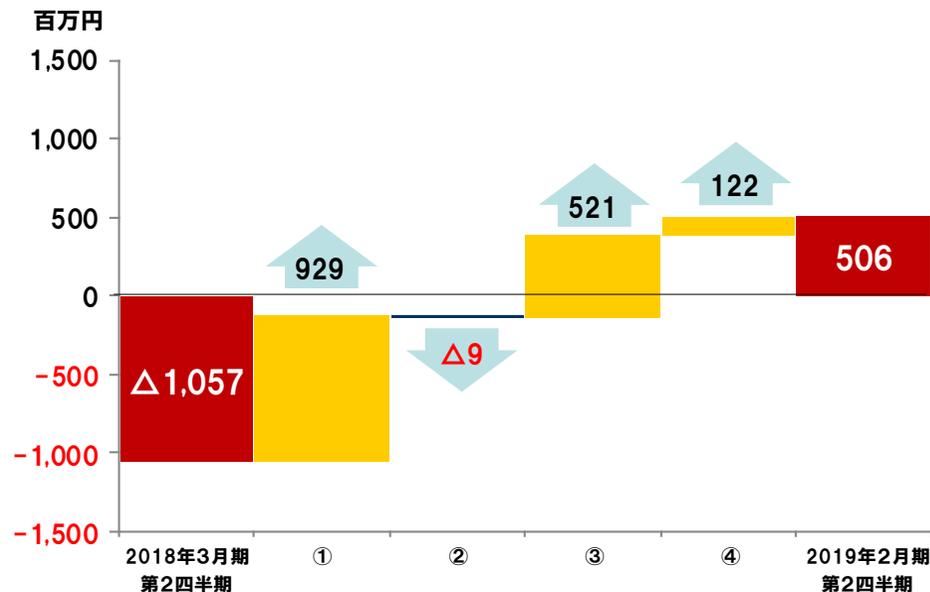
		2018年3月期 第2四半期		2019年2月期 第2四半期		
		実績	構成比 (%)	実績	構成比 (%)	前期比 (%)
テナント事業	売上高	21,770	100.0	21,975	100.0	100.9
	ユニー店舗	18,186	83.5	18,235	83.0	100.2
	その他店舗	3,583	16.5	3,739	17.0	104.3
	セグメント利益	811	3.7	787	3.5	97.0
外販事業	売上高	22,744	100.0	23,468	100.0	103.1
	ファミリーマート	20,541	90.4	21,387	91.1	104.1
	鉄道系コンビニ	1,032	4.5	1,057	4.5	102.4
	宅配	1,032	4.5	989	4.2	95.8
	その他	137	0.6	33	0.2	24.4
	セグメント損失(△)	△1,868	—	△281	—	—

売上高と利益の増減要因

売上高



営業利益



2018年3月期 第2四半期

44,514 百万円

①テナント 新設店舗による売上増加	979 百万円
②テナント 既存店舗による売上増加	333 百万円
③テナント 廃店および一時閉店による売上減少	△1,107 百万円
④外販 コンビニエンスストア部門の売上増加	846 百万円
⑤外販 その他部門の売上減少	△122 百万円

2019年2月期 第2四半期

45,443 百万円

増減額

929 百万円

2018年3月期 第2四半期

△1,057 百万円

①売上高の増加	929 百万円
②仕入高の増加	△9 百万円
③人件費の減少	521 百万円
④その他経費の減少	122 百万円

2019年2月期 第2四半期

506 百万円

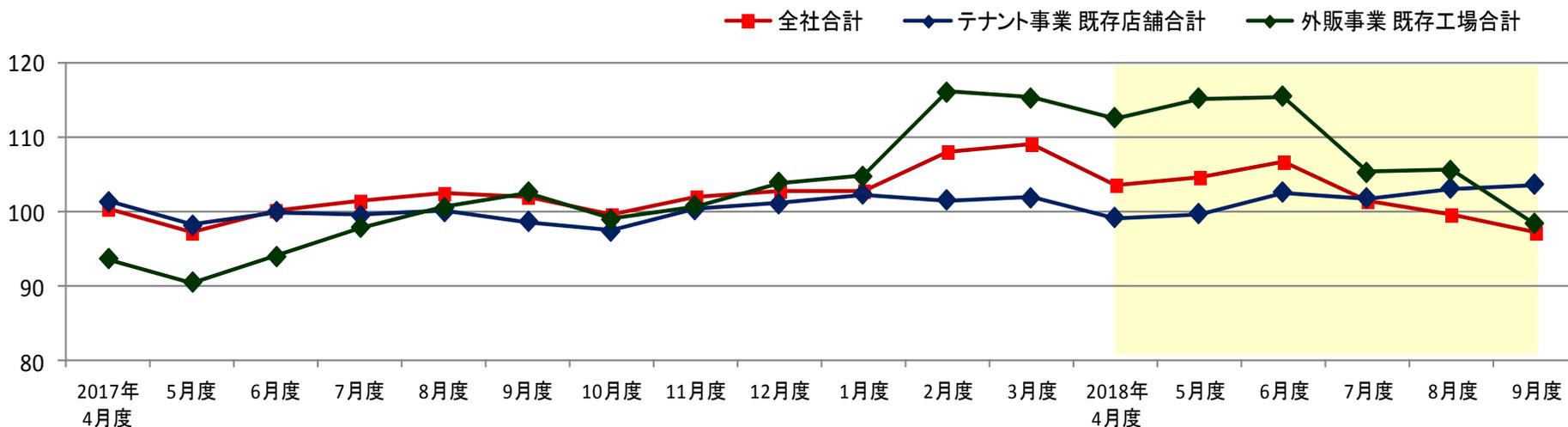
増減額

1,563 百万円

月次売上高 前年比

		2018年3月期														2019年2月期 第2四半期						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期累計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	通期累計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期累計
全社合計		100.3	97.1	100.0	101.3	102.3	101.9	100.5	99.4	101.8	102.8	102.8	107.9	108.9	102.2	103.6	104.6	106.6	101.5	99.6	97.2	102.0
テナント事業	合計	102.1	98.5	100.6	99.3	98.6	95.5	99.1	94.5	97.4	98.5	98.2	96.9	99.5	98.3	98.1	98.4	101.4	100.8	102.7	104.0	100.9
	既存合計	101.3	98.2	99.9	99.5	100.0	98.6	99.6	97.4	100.2	101.1	102.2	101.5	101.8	100.2	99.1	99.6	102.5	101.7	103.0	103.5	101.6
	ユニー店舗	101.5	98.3	100.2	99.9	100.7	98.7	99.9	97.7	100.0	101.1	102.3	101.6	102.1	100.4	99.1	99.5	102.4	102.0	103.1	103.9	101.7
	その他店舗	100.4	97.6	98.4	97.2	96.1	98.0	98.0	96.1	101.0	101.2	101.3	101.0	100.6	99.2	99.4	100.3	103.0	100.0	102.6	101.1	101.0
外販事業	合計	98.6	95.8	99.4	103.1	106.3	108.1	101.9	104.4	106.0	108.1	108.3	119.9	118.5	106.2	109.0	110.9	111.8	102.2	96.5	91.3	103.1
	既存合計	93.6	90.4	93.9	97.8	100.5	102.5	96.5	99.0	100.6	103.8	104.7	116.1	115.2	101.2	112.5	115.1	115.4	105.2	105.5	98.3	108.4
	ファミリーマート	99.2	96.3	100.4	104.2	107.6	110.4	103.0	105.8	108.5	111.0	110.1	123.9	121.5	108.0	110.4	112.8	114.2	102.3	97.3	90.7	104.1
	その他	93.3	91.5	92.1	93.4	95.4	89.0	92.7	93.2	87.5	84.4	93.1	91.1	93.8	91.7	96.2	95.1	91.7	100.8	88.7	97.5	94.4

(注) 1.既存店舗の区分は、開店月より14ヵ月経過した店舗と定義しております。
 2.上表の累計数値は、会計上の修正額を含めて計算しております。



貸借対照表、キャッシュ・フローの状況

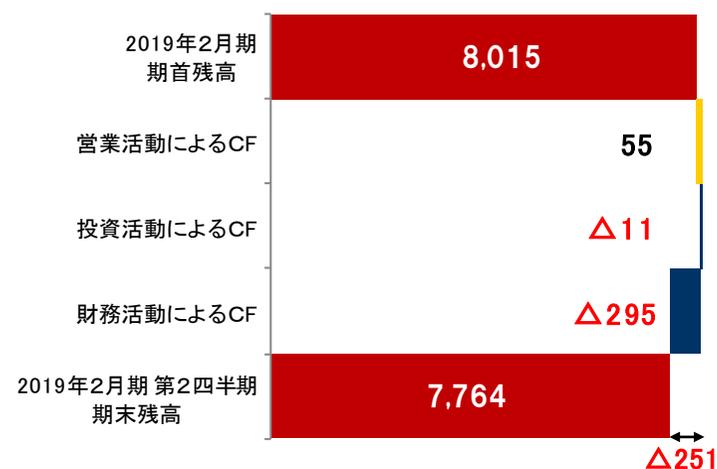
(単位:百万円)

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年2月期 第2四半期	増減
流動資産	18,884	18,808	△75
現金及び預金	8,015	7,764	△251
売掛金	10,137	10,218	80
たな卸資産	479	474	△4
その他	251	351	99
固定資産	15,462	14,834	△627
有形固定資産	13,233	12,753	△479
無形固定資産	94	125	31
投資その他の資産	2,134	1,955	△179
資産合計	34,346	33,643	△703
流動負債	9,323	8,648	△674
固定負債	211	109	△102
負債合計	9,535	8,758	△777
純資産合計	24,810	24,884	73
負債・純資産合計	34,346	33,643	△703
自己資本比率(%)	72.2	74.0	1.8

	2018年3月期	2019年2月期 第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,039	55
投資活動によるキャッシュ・フロー	△187	△11
財務活動によるキャッシュ・フロー	△598	△295
現金及び現金同等物の増減額	△3,825	△251
現金及び現金同等物の期首残高	11,841	8,015
現金及び現金同等物の期末残高	8,015	7,764

(単位:百万円)



設備投資

(単位:百万円)

	2018年3月期	2019年2月期 第2四半期	
	実績	実績	主な設備投資の内容
テナント事業	169	116	新設1店舗、改装4店舗および店舗設備等の更新等
外販事業	1,744	162	生産設備の更新および増強等
その他	131	123	設備の更新等
合計	2,045	402	

テナント事業(出退店・改装の概要)

テナント事業(出退店・改装の概要)			2018年3月期	2019年2月期 第2四半期			
業態	ブランド	期末店舗数	出店	退店	改装	期末店舗数	
ユニ ー 店 舗	総合惣菜	Kanemi	196		2	2	194
	寿司専門	寿司御殿	32				32
	洋風惣菜	K-STAGE(ケイステージ)	10				10
そ の 他 店 舗	総合惣菜	Kanemi	10	1			11
		e'z mart(イーズマート)	4			1	4
		ease deli(イーズデリ)	4				4
	寿司専門	寿司御殿	1				1
	洋風惣菜	eashion(イーション)	30		2	1	28
	外食	寿司御殿	3				3
合計			290	1	4	4	287

設備投資：テナント事業(出退店・改装の内容)

出店	日付	業態	店舗名	区分	所在地
	9/28	総合	ららぽーとみなとアクルス店	スーパーマーケット	名古屋市港区

退店	日付	業態	店舗名	閉店理由	所在地
	6/30	洋風	eashionシャポー市川店	ディベロッパーの改装に伴う休業	千葉県市川市
	8/26	洋風	eashionラゾーナ川崎店	ディベロッパーの改装に伴う休業	川崎市幸区
	9/9	総合	アピタ田富店	ディベロッパー閉店	山梨県中央市
	9/30	総合	飯田駅前店	ディベロッパー閉店	長野県飯田市

改装	日付	業態	店舗名	所在地
	4/19	総合	アピタ松任店	石川県白山市
	4/23	総合	イーズマート 枚方T-SITE店	大阪府枚方市
	6/1	洋風	eashion阪神梅田店	大阪市北区
	7/13	総合	東刈谷店	愛知県刈谷市



ららぽーとみなとアクルス店

東海3県初出店となる商業施設「三井ショッピングパークららぽーと名古屋みなとアクルス」が、愛知県名古屋市港区に9月28日オープン。

1階フロアに展開するアオキスーパー内に当社総合惣菜店舗を新規出店。

見た目がオシャレで人気のお弁当「デリBOX」をはじめ、寿司・弁当・サラダ・揚げ物など豊富なラインナップを取り揃え、お客様の食卓に彩りと美味しさをご提供。

■ 決算期の変更について

- 2018年6月21日開催の第48回定時株主総会にて、「定款一部変更の件」が承認され、決算期を変更することを決議いたしました。
- 変更の理由
当社の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとしておりましたが、親会社であるユニー・ファミリーマートホールディングス株式会社と決算期を統一することにより、決算業務及び経営計画策定並びに業績管理等の効率化を図るため、当社の事業年度を毎年3月1日から2月末日に変更いたしました。
- 決算期変更の経過期間となる第49期事業年度は、2018年4月1日から2019年2月28日までの11ヵ月決算となります。

■ 2019年2月期(第49期)(2018年4月1日～2019年2月28日 / 11ヵ月決算)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月

■ 2020年2月期以降(毎年3月1日～翌年2月末日)

2019年2月期 業績見通し

(単位:百万円)

	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年2月期 計画 (18.4.1~19.2.28 / 11ヵ月)	参考 ※ (18.4.1~19.3.31 / 12ヵ月)
売上高	85,580	89,939	88,258	90,233	82,945	90,562
営業利益または損失(△)	2,661	3,067	498	△1,167	483	601
経常利益または損失(△)	2,758	3,177	582	△1,062	548	668
当期純利益または純損失(△)	1,751	1,815	△514	△932	227	327
テナント事業						
売上高	43,308	44,948	44,768	44,030	40,531	44,152
セグメント利益	1,623	1,534	1,639	1,710	1,461	1,595
外販事業						
売上高	42,272	44,991	43,490	46,203	42,413	46,409
セグメント利益または損失(△)	1,038	1,533	△1,133	△2,878	△977	△994

※ 参考数値として、2018年5月9日公表の決算期変更前(2018年4月1日 ~ 2019年3月31日の12ヵ月)の業績予想数値を記載しております。

当第2四半期において、各利益項目は2018年5月17日に公表した通期の業績見通しを既に上回っているものの、現時点において通期の業績見通しは修正しないものとなりました。修正をする上で必要となる情報の精査中であり、また現状入手しうる情報で業績に影響を与える要因の有無を見極めることが困難であるためです。なお、営業利益および経常利益については上積みできる見込みであり、通期の業績見通しをさらに積み上げられるよう引き続き注力してまいります。

2019年2月期 設備投資計画

(単位:百万円)

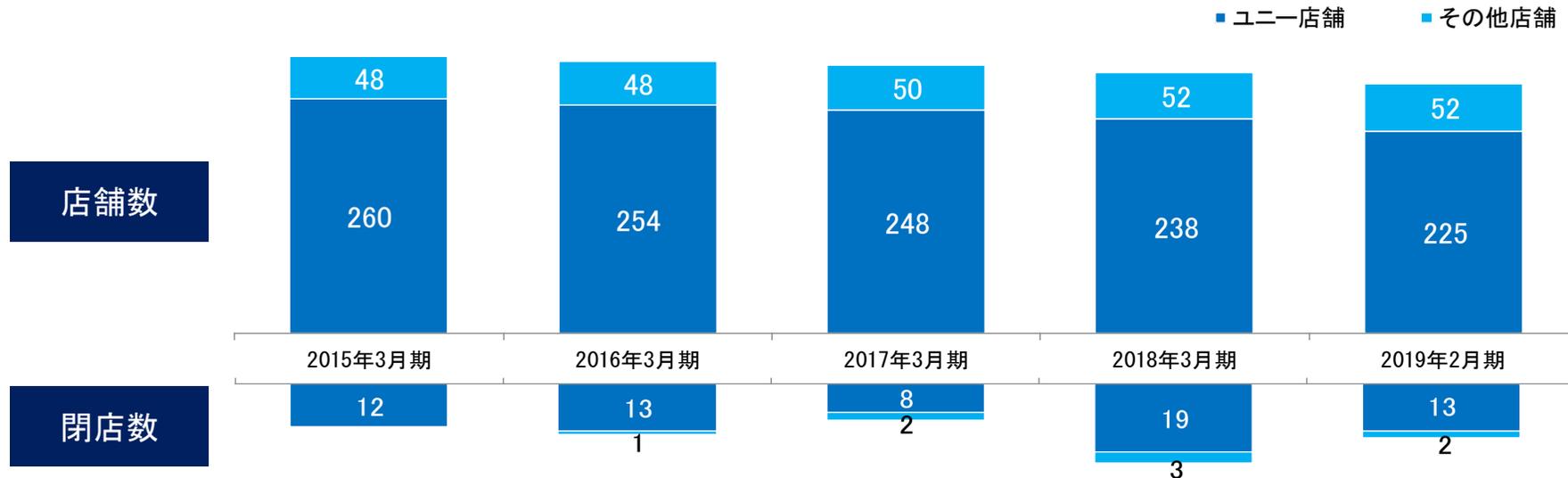
	2018年3月期	2019年2月期	
	実績	計画	下期の主な設備投資の内容
テナント事業	169	216	新設1店舗、改装5店舗および店舗設備等の更新等
外販事業	1,744	313	生産設備の更新および増強等
その他	131	123	設備の更新等
合計	2,045	654	

テナント事業 店舗計画

テナント事業 店舗計画			2019年2月期 第2四半期	2019年2月期 下期計画			
業態	ブランド	期末店舗数	出店	退店※	改装	期末店舗数	
ユニ ー 店 舗	総合惣菜	Kanemi	194		11	5	183
	寿司専門	寿司御殿	32				32
	洋風惣菜	K-STAGE(ケイステージ)	10				10
そ の 他 店 舗	総合惣菜	Kanemi	11				11
		e'z mart(イーズマート)	4				4
		ease deli(イーズデリ)	4				4
	寿司専門	寿司御殿	1				1
	洋風惣菜	eashion(イーション)	28	1			29
外 食	寿司御殿	3				3	
合計			287	1	11	5	277

※ 下期計画の退店には、ディベロッパーの変更に伴う一時閉店7店舗を含みます。

テナント店舗の状況



業態	ブランド	2015年3月期				2016年3月期				2017年3月期				2018年3月期				2019年2月期				
		出店	退店	改装	期末店舗数	出店	退店	改装	期末店舗数	出店	退店	改装	期末店舗数	出店	退店	改装	期末店舗数	出店	退店	改装	期末店舗数	
ユニ一店舗	総合惣菜	Kanemi	4	6	1	209	7	5	2	211	2	8	6	205	9	18	1	196		13	7	183
	寿司専門	寿司御殿		6		41		8	1	33				33		1		32				32
	洋風惣菜	K-STAGE				10				10			1	10				10				10
その他店舗	総合惣菜	Kanemi				8	1			9			1	9	1			10	1			11
		e'z mart				4				4	1			5		1		4			1	4
		ease deli				4				4				4				4				4
	寿司専門	寿司御殿				0				0				0	1			1				1
	洋風惣菜	eashion	2		1	29		1		28	3	2	3	29	3	2		30	1	2	1	29
外食	寿司御殿				3				3				3				3				3	
合計			6	12	2	308	8	14	3	302	6	10	12	298	14	22	1	290	2	15	9	277

※2018年3月期の出退店数には、ディベロッパーの変更に伴う一時閉店および再出店8店舗を含みます。

※2019年2月期の出退店数は、上期の実績+下期の計画を記載しております。なお、退店数には、ディベロッパーの変更に伴う一時閉店7店舗を含みます。

**2019年2月期 第2四半期
業績総括および今後の見通し**

○ テナント事業

- 新規出店1店舗、改装4店舗、閉店4店舗

- ・ 『ららぽーとみなとアクルス店』(名古屋市港区)にて展開するアオキスーパーへ新規出店

- 既存店舗のさらなるレベルアップ

- ・ MEGA ドン・キホーテ UNY 6店舗の実績分析 ⇒ 想定以上の客層の変化と店内競合の増加により苦戦するも、店舗環境に応じた商品政策をとり、徐々に持ち直す
- ・ 単品管理データの活用による各店舗の売場構成や販売計画の見直し ⇒ 定番商品、週末売り込み商品のさらなる販売強化

○ 外販事業

- 売上高の確保および利益面の改善

- ・ 津工場(3月末)、三田工場(7月末)の閉鎖 ⇒ 拠点集約に伴う生産性の向上
- ・ 生産体制の均一化および省人化による製造効率の向上と、在庫管理およびロス対策による荒利率の改善
- ・ サークルK、サンクスからファミリーマートへの看板替え等の影響による納品店舗数の減少に伴う売上高の減少
(2018年3月末:9,162店舗 → 2018年9月末:8,626店舗)

- 継続的な品質の向上

- ・ 安心・安全な商品づくりの徹底 ⇒ 管理体制の見直しと定着の確認

- 内製化の推進

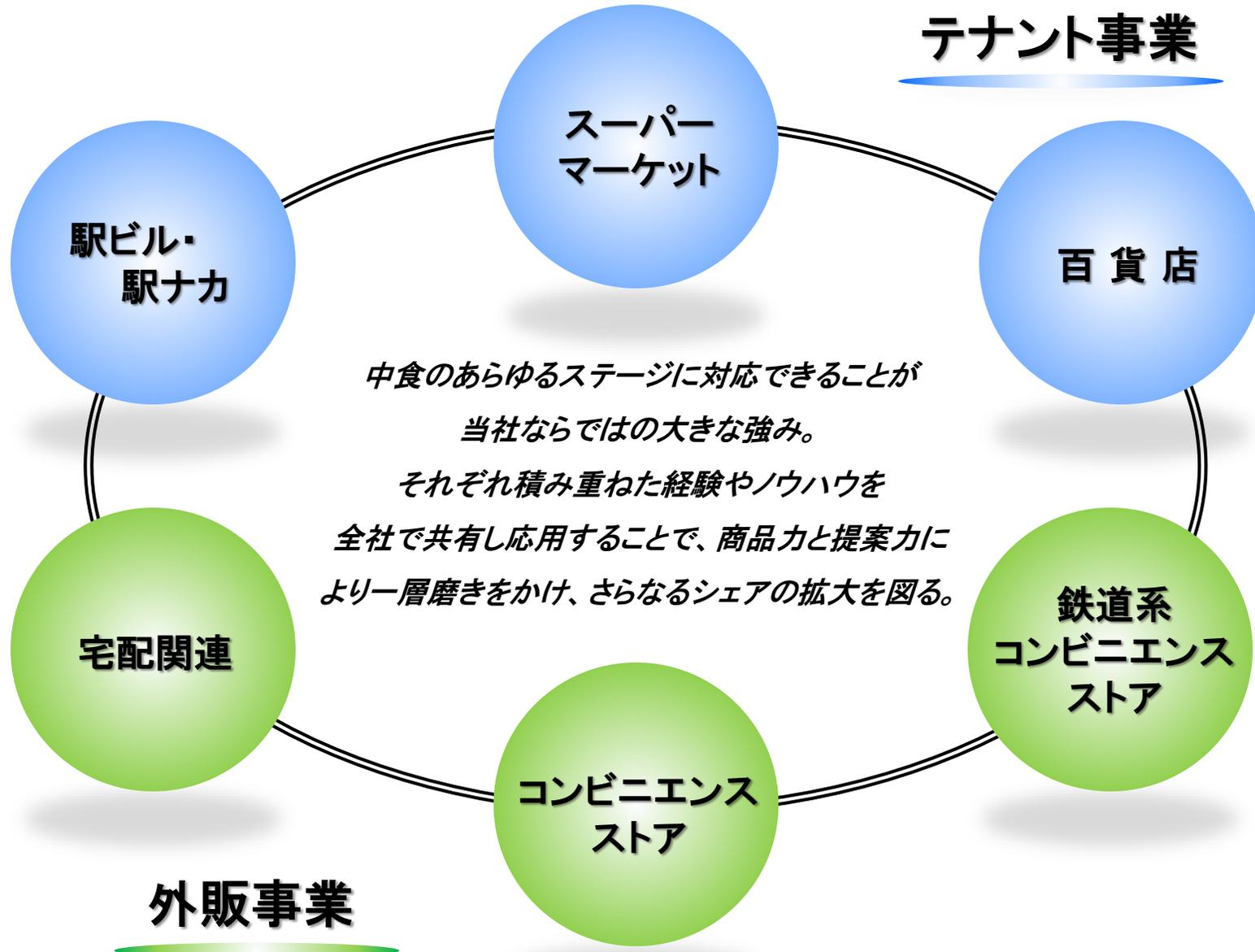
- ・ テナント店舗向けの商品として、従来の弁当・おにぎり・おはぎ・いなりにつき、サラダ・和惣菜の納品を開始

○ テナント事業

- **新規出店の推進**
 - ・ 引き続き、関東圏を中心とした駅ナカ、駅ビル、その他商業施設への出店に向けたアプローチ
- **業態転換店舗『MEGA ドン・キホーテ UNY』のビジネスモデルの確立**
 - ・ 既存6店舗の経験値を軸に今後の展開に対応 ⇒ 店舗環境に応じた運営および商品政策(売場構成、価格、品揃え、サイズ等)
- **既存店舗のさらなるレベルアップ**
 - ・ 定番商品のブラッシュアップと販売強化 ⇒ 部門間、地区間、店舗間での販売格差を是正し平準化を図る

○ 外販事業

- **売上高の増加および利益面の改善**
 - ・ 10月より(株)ファミリーマートが展開する自販機型無人コンビニ(ASD)への納品開始(埼玉工場、横浜工場製造)
 - ・ 鉄道系コンビニエンスストア、生協関連の納品量拡大に向けた取り組み
 - ⇒ 鉄道系コンビニエンスストア … 主力商品「炒飯」の品質向上、生協 … コープデリで新メニュー「たっぷりおかず」の投入
 - ・ 徹底的な「ムダ」の削減による製造効率の向上および荒利率の改善
- **継続的な品質の向上**
 - ・ 安心・安全で美味しい商品づくり ⇒ 製造管理体制のさらなる強化およびルールの周知徹底、再教育



ご参考: 中食市場について

国内の中食(惣菜)市場規模は10兆円超

中食市場は、これまで少子高齢化や核家族の進行、女性の社会進出などによるライフスタイルの変化により規模を拡大。

一方、成長性が見込まれるため、中食ベンダー・食品メーカー・SM等の参入増加により、競争環境が厳しさを増している。

当社は、この国内の中食市場内におけるシェアの拡大を図り、企業価値の向上を目指す。

求められているもの

日常性

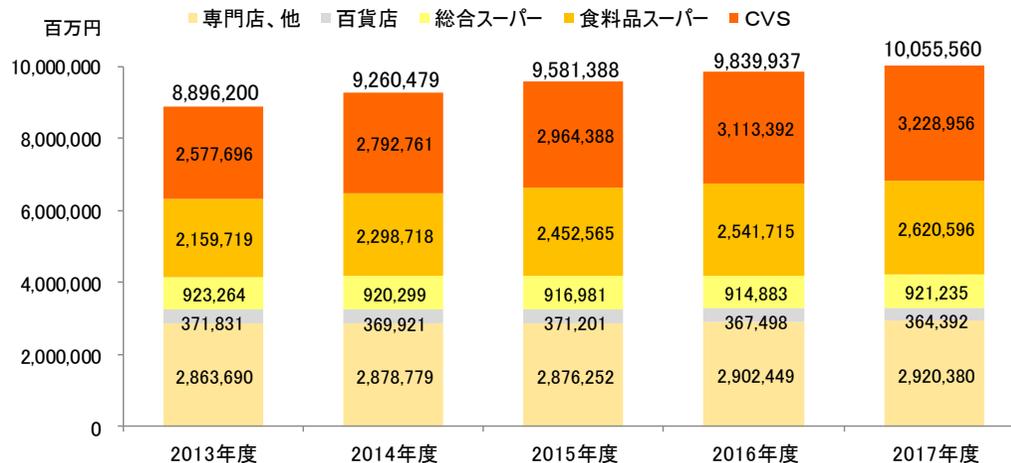
- 安心安全 → 品質管理、衛生管理
- おいしさ → 地域の自然の恵み(地産地消)
季節の恵み
鮮度
カロリーや栄養コントロール
- 手軽さ → 簡単調理
価格・ボリューム

非日常性

- 高付加価値商品 → デザイン性・ブランド力等
珍しい食材・高級食材
豊富なメニュー

【参考資料: 惣菜市場規模】

出所: 社団法人日本惣菜協会 2018年版惣菜白書



※ 専門店: 惣菜専門店(惣菜販売店、持ち帰り弁当店、仕出し弁当店、給食業者、駅弁売店、寿司販売店、おにぎり販売店、調理パン小売業(サンドイッチ、ハンバーガー等)、ピザ小売業(持ち帰り)など)、イートインコーナー併設惣菜店、受注後調理型惣菜店など

【参考資料: 年間の1世帯当たりの品目別支出平均金額(総世帯)】

出所: 総務省統計データ (品目分類) 第10表 年間収入五分位階級別1世帯当たり 品目別支出金額及び購入頻度(総世帯)

